



# ひらほくに新聞

「ひらほくに新聞」で検索！  
 ★ホームページ ひらほくにランド★  
<http://www.hirahoku.com/>  
 ☆バックナンバー含め ひらほくに新聞」を  
 閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほくに) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



謹んで新年のお慶びを申し上げます。  
 まずは先人たちの教えをあらためて有難く学び、実践に活かす。そしてその先の世のために繋がる自分の才能開花へ。眠っている日本人の美徳・DNAと無限の可能性を呼び覚まし、進歩前進する最幸の一年になりますように。  
 本年も「ひらほくに新聞」ご縁のお付き合いを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 『惻隠(そくいん)の情』

『惻隠の情』とは、思いやりの心と全く同じではありません。困っている人を見たらとにかく放っておけない、つい助けてしまふ、そんなやむにやまれぬ思い、行動を伴う思いやりです。

戦前までの日本では、幼い子どもたちまでその先人が育んできた美徳を共有していました。しかし残念なことに今、日本人の中から消えつつある言葉かもしれません。

戦後の日本、すっかり骨抜きにされてきた、これまでの教育で教えてこられなかった最も大切なこと。すでに知らずに育った大人たちからまず、あらためて深く学び、そして日本の次世代を担う子どもたちへ伝えていくことが私たちの使命です。

私は講演で、よく台湾の話を見せていただいています。すが、有り難いことに、台湾のほかにも、親日国は世界にまだまだたくさんあります。その一つが、トルコ。トルコと日本の友好の歴史は、1890年にさかのぼります。

この年、日本を訪れたトルコの軍艦・エルトゥール号が、紀伊半島沖で台風

に遭い、転覆。犠牲者は500名以上に上り、助かったのはたった69名という大惨事が起こったのです。串本の東に浮かぶ、紀伊大島。男たちは、漆黒の海に飛び込み、自分より一回りも二回りも大きな男たちを背負

って、数十メートルの断崖をよじ登り、待ち受けていた女性たちが彼らを温め、必死で介抱し、69名はなんとか一命をとりとめました。

大島村は、半農半漁の貧しい村で、しかもこの年は台風の当たり年と言われ、漁に出られない日が続いたため、村人たちは自分たちが食べる物にさえ事欠く有様でした。それなのに、村人たちは、貴重な米を炊きだし、ありったけの食べ物

を、異国の気の毒な人々のために提供したのです。中には、お正月用にとっておいたさつまいもやニワトリをわけあたえる者もいたそうです。

こうした村人たちの善意のおかげで、69名の生存者は体力を回復し、日本の軍艦によってトルコに送り届けられました。この事実を、

トルコの人々は教科書に掲載し、日本への感謝を語り継いでくれたのです。

時は流れ、1985年…。イラン・イラク戦争が勃発。イランの首都・テヘランでは、イラクによる空爆が激しさを増す中、当時イラク大統領だったサダム Hussein の恐ろしい宣言で、日本人は窮地に立たされます。

「イランの上空を飛ぶすべての飛行機を撃ち落とす！」軍用機だけでなく、民間機も無差別に撃ち落とす、というのです。しかもサダム Hussein が猶予として与えた時間は、たったの48時間でした。

当時の日本には、自衛隊を海外で活動させるという法律がありませんでした。そこで、日本政府は他国に

応援を打診したものの、各国国民の救出に手いっぱい断られてしまいました。そのため、在イラン日本人

200名以上は脱出方法が見つからずに生命の危機に瀕していました。

もはやタイムリミット！万策尽きたイランの日本大使館でしたが、野村大使はそれでも「ネバーギブアップ」。トルコ大使館のピルレル大使に助けを求めました。彼らは同時期にイランに赴任しており、家族ぐるみ

のつきあいがあったのです。でも、逆に言えば、その大使同士個人的なつきあいに頼らなければならぬ状況だった、と言えるで

しょう。ピルレル大使から、オザレ首相へ、日本の窮状が伝えられます。オザレ首相から日本人救出を要請されたトルコ航空では、即座に、この危険なフライトをしてくれるパイロットを募りました。すると、なんとその場にいたパイロット全員が志願したというのです。

2機のトルコ航空機が、夕闇迫るテヘランのメヘラーバード国際空港に降り立ちました。215名の在留邦人を乗せ、イラン国境を越えてトルコ領空に入ったのは、タイムリミットのわずか1時間15分前のことでした。

トルコの領空に入った瞬間、「Welcome to Turkey, Ladies and gentlemen」というアナウンスが機内に響き渡りました。タイムリミットにはギリギリ間に合ったものの、フセイン大統領が自分の宣言を守る確証はありませんから、イランの上空を飛んでいる限り、乗員も乗客も、心が休まることはなかったでしょう。

「Welcome to Turkey」というアナウンス、これはすなわち「助かった」ということを意味するのです。このアナウンスが聞こえた瞬間、乗員と乗客は、手と手を握り合い、お互い涙したそうです。

安堵の涙を流した乗客たちは、やがて我に返ります。それにしても、なぜトルコ航空が私たちを助けに来てくれたのだろう？

その疑問をぶつけると、乗員は微笑みながらこう答えました。

「エルトゥール号の恩返しです」

その後、1999年にトルコで地震が起こると、混乱のテヘランから救出された人々が政府に働きかけ、日本はトルコの復興支援に尽力しました。また、2000年のオリンピック開催都市が東京に決まると、安部総理のもとに駆けつけ、真っ先に祝福してくれたのは、決戦投票で東京に敗れた、トルコのエルドアン首相でした。

エルトゥール号の遭難という悲劇が始まりました。トルコと日本は、報恩感謝の歴史を、かけがえない友情を、一世紀以上にわたって育んできたのです。感謝の歴史は、誰にも書きかえることはできませんからね。本当に有り難いです。さて、昨年は、安部総理がトルコを訪問しました。その際に、エルトゥール号のご遺族の子孫に会い、彼らの前で、日本・トルコ合作の映画を製作することを宣言しました。撮影は順調に進んでいるそうです。(昨年3月16日付けコラム) 〓〓〓〓〓〓〓〓〓

ご先祖様から受け継いできた美しい日本人の生き方。誰にも眠っているその美徳の精神を自覚めさせて、有難い思いを皆で共有、次の世代へしっかりと恩送りしていきたいと思います。この奇跡の実話と共に。

# 『もつと恩返しを』

サッカーJ1で2015年、サンフレッチェ広島の間、年間優勝にも大きく貢献し、最も活躍した若手選手に贈られるベストヤングプレーヤー賞に選ばれたFW浅野拓磨(21)選手。どのようにして彼の能力は開花したのか。スポニチに掲載されていた浅野選手の素晴らしい手記をご紹介します。

僕にとっては初優勝のよきな感覚がある。13年に優勝したプロ1年目は、出場1試合。あまり実感がなかった。今季は、第6節でリーグ戦初ゴールを決め、結果的に、トータル8ゴール(途中出場がほとんど)。目標の2ケタには届かなかったけれど、優勝に少しは貢献できたと思う。

みなさんと喜ぶことができて凄く嬉しい。この喜びと感謝を、一番に家族に伝えたい。自分は7人きょうだいの三男で、高校を卒業するまで両親も合わせ9人で生活していた。お父さんはトラックの運転手。きょうだいが多く、金銭的に苦しいこともあり、ほかの家庭にはない生活の厳しさを感じた。「ウチって金ないなあ。この先、どうなんねやろ」と子どもながらに考えることもあって。それでもサッカーは不自由なく続けさせてもらった。

自分にとっての分岐点は高校入学前。サッカーの強

い四日市中央工高は、遠征費とかが高いと聞いて、僕はお金がかからない強くない学校に行こうと考えていた。でも、中学の先生が「本当にいいのかわ？」と説得してくれて、最後は両親が「行っていいよ」と背中を押してくれた。

その時、自分の気持ちが、「プロになりたい!」じゃなく、「ならなくちゃいけない」に変わった。

高校に入ってレベルが高くなり、気持ちが折れそうになったときも、「タクはプロになれる」と家族は支えてくれた。

今でも週に1、2回は、三重の実家にテレビ電話をかけ、今年4歳になる妹や家族全員と話している。

活躍すれば一緒に喜んでくれ、ゴールを決められなかったときは、一緒に悔しかったときも、思うようにならずに気持ちが沈んでいるときでも、家に電話をすれば、元気が出てくるし、また頑張ろう、と思える。

プロになってから、両親に車をプレゼントすることができた。ひとつの親孝行ができたけど、まだまだ。僕は、「これ(親孝行)をするためにプロになった」と思っているから。金銭面もそうだけど、僕が活躍して、テレビに映っている姿を見せるだけでも、元気や喜びを与えられると思う。

僕は絶対にここまでこられなかった。実家で過ごした18年間は、本当に楽しくて、幸せで。振り返ってみても、楽しい思い出がいっぱい浮かんでくる。

あの幼少期がなかったら、今の自分はない。サッカー選手として成長し、もつと恩返しをしていきたい。



神奈川新聞社主催 第七回「新聞感想文コンクール」小学4年生の部最優秀賞「給食アレルギー事故」少女の詞

佐川 礼華

か女の詞を読んで私もはげまされた。なぜなら私も人とちよつとちがう事があるから。私は赤血球が生まれつきまわる病気だ。そのせいで、入院やゆ血をした事がある。お父さんとお母さんは、こんな病気ではない。親せきにもいないらしいし、学校の友達にもいない。まわりになれも同じ病気の人はいない。暑さに弱くて、まわりのみんなについていけないから、とてもくやしさをしている。さい血けんさはがまんしているけれど、

本当はいたいからしたくない。お父さんとお母さんにこんな病気でなかった方が良かったと言った事がある。この記事は、小学校の給食でアレルギーのショックでなくなった女の子が、私と同じ四年生の時に書いた詞が歌になり、アレルギーや子どものしょうがい、で、なやんでいる人たちははげましていると言われていた。

私にはこんな人をはげませるような詞は書けない。そんな詞を作った女の子をそんなけいする。この記事を読んで、みんなはみんな自分分は自分と思えるようになった。自分と同じように、人たちがうちはたくさんいるし、ちがう理由もたくさんある。自分だけが、人たちがうけではないし、これでいいと思わせてくれた。

私はこの夏に、ひそひそと取る手じゆつをする。不安だし入院はいやだし、いたいのほもつといやである。そして、またひとつ人たちがう事ができてしまう。お母さんから、これから大人になって、この病気でいろいろなやむ事が出てくるかもしれないけど、お父さんやお母さん以外でこの詞のように「これでいいよ。」と言ってくれる人を見つけた。この詞のなさいと言われた。この詞のように、私はみんなとちよつとちがうけど、これでいいと言ってくれる人とたくさん出会いたい。そして、同じような人にも、これでもいいと言ってあげたいと思った。(おわり)

# 「抱きしめなさい 子を」

抱きしめなさい 子を  
育児書を閉じ  
子育てセミナーを欠席し  
抱きしめなさい 子を  
誰にも遠慮せず  
あなたの子を  
しっかりと  
抱きしめなさい

抱きしめなさい 子を  
母の膝が  
子供の愁い(うれい)の  
すべてを除く  
その時代(とき)に  
いつか母の膝は  
子の悲しみに近づけない  
日がやって来る  
やがて母の手が  
子の涙を拭いてやれない  
日が訪れる

きつと来る その日  
子が涙を拭う手に  
柔らかな記憶の手が  
重なるように  
痛む子の心が  
温かな思い出の膝に  
包まれるように  
母よ  
抱きしめなさい 子を  
もう何も  
してやれない日のために  
抱きしめる手が  
子の未来に届くよう  
幾度も 幾度も  
抱きしめなさい  
母たちよ  
やがて別れる者として  
あなたの子を  
しっかりと胸に 抱きしめなさい

『お母さんと呼ばれるあなたへ』(浜文字/立風書房)

# 『第三印象』

「陰口」の反対語に「陽口(ヒナタグチ)」という言葉があつて「当人のいないところで、その長所について大いに語り合うこと」なのだそう。良い響きでとてもよい行いだと思えます。

そして、この言葉から思い出したのが、昨年ご紹介しました、たまちゃんこと小玉宏先生の講演CDでの「第三印象」のお話。一般的に「第二印象」は「実際に少し話した後感じる相手の印象」、「第三印象」は「長く付き合っていく中で徐々に固まってくる総合的な印象」とのことですが、たまちゃんの解釈は少し違っていました。

たまちゃんの言う「第三印象」とは、その人が「何をやってきたか」「何を続けてきたか」ということで、その人じゃなくて、周りの人が言っていること。その人が今何をやっているのか関係なく、とにかくその人が「何を続けてきたか」ということが一番重要。一つのことを信念を持ってずっと続けていたら話題になって周りの人から聞こえてくる、そんな良い評判こそが「第三印象」。これが一番大事だというお話でした。

スタートに相応しい年頭、新たに一つチャレンジを決めて、「何のためにやるのか」明確な意味づけを常に意識しながら、ワクワク続けていきましょ。

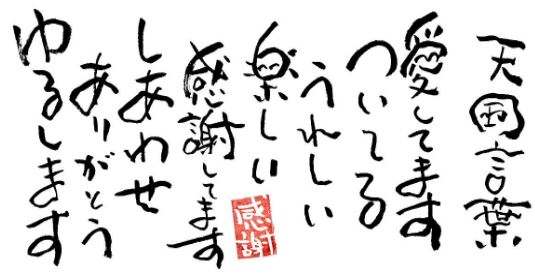
# 『言葉は言葉』

おかげさまで、10年以上前から「斎藤一人」(納税額日本一の実業家・心の楽しさと経済的な豊かさを両立させるための著書多数刊行)信者(笑)です。当店には有難く「天国言葉と地獄言葉」のメッセージが貼ってあります。

あなたは、どんな時も「ツイてる、ツイてる」という言葉を口癖になるほど使っている、ポジティブになり、生き方・人生が変わるって言われて信じますか?人は一生成長していきけるのですが、そのための最重要点は『素直さ』だといひます。良いと思つたことは「信じて楽しく続けること」。

続けてもなかなか自分を変わらないなあと思つた人は「猜疑心」があるので変化はこないそうです。騙されたと思つて・・・というより、まづ「自分は最幸に素晴らしい」って騙しちゃいましょ。

毎日「天国言葉」で、笑顔満開、最幸の一年に!



感想などお便りをお待ちしております。筆文字カードをお届けいたします。